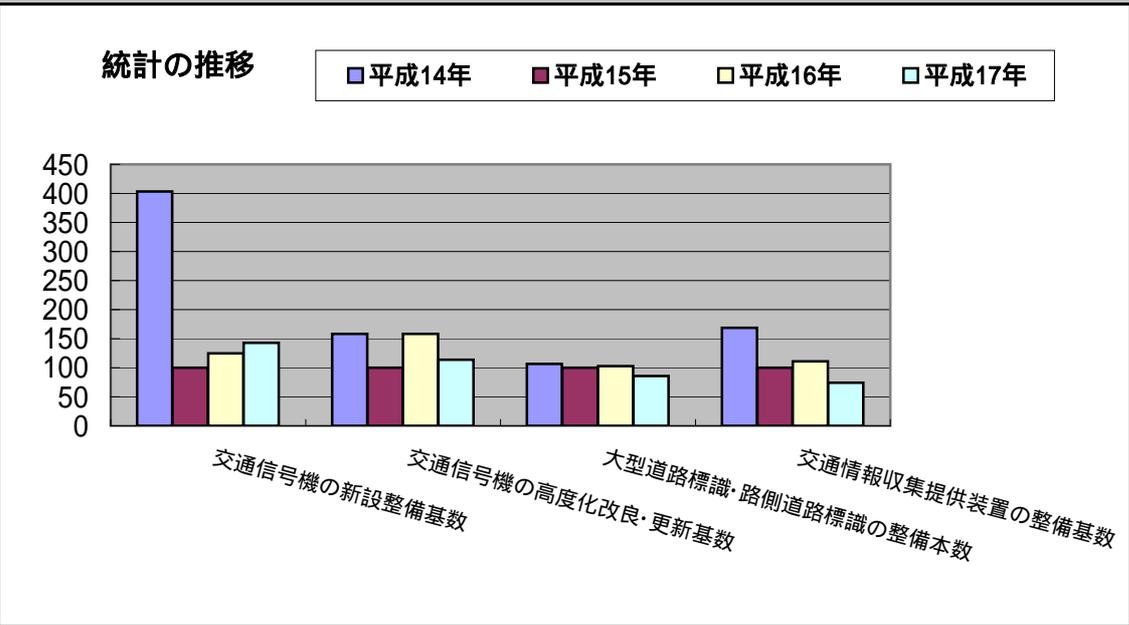


業務名	交通環境の整備
-----	---------

業務に関する統計

項目	統計の推移				単位
	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	
交通信号機の新設整備基数	113	28	35	40	基
交通信号機の高度化改良・更新基数	198	125	198	142	基
大型道路標識・路側道路標識の整備本数	3,911	3,676	3,781	3,154	本
交通情報収集提供装置の整備基数	91	54	60	40	基



<グラフは、平成15年を100とする指数で表した。>

業務の主なコスト

	事業名	平成17年度事業費(千円)	平成18年度事業費(千円)
1	国補交通管制センター設置費	277,834	239,420
2	国補交通信号機設置及び改良費	126,406	130,947
3	国補道路標識設置費	20,505	22,550
4	国補交通安全施設調査費	10,182	10,580
5	安全・安心交通環境整備事業費	73,216	52,836
6	安全で快適な交通環境の整備事業費		94,058
7	県単交通信号機設置費及び改良費	93,235	58,462
8	道路標識設置費	64,503	57,931
9	道路標示塗装費	109,679	95,575
10	交通安全施設地中化事業費	57,200	50,300
11	パーキングメータ等維持管理費	60,715	62,371
12	交通安全施設維持管理費	684,412	662,724
13	交通事故抑止緊急事業費	189,765	
合計		1,767,652	1,537,754

## 平成17年の取組み

交通事故の犠牲者を減少させるため、関係機関・団体等との連携を強化し、県民生活に適応した交通環境の整備に努めた。

UTMS（新交通管理システム）及び交通管制システムの高度化、交通情報収集・提供装置の整備、騒音・振動・排気ガス等交通公害を低減させるための道路交通の最適化など、IT化による道路交通の安全と円滑化及び交通公害対策に努めた。

「あんしん歩行エリア」の整備、高齢者・障害者・歩行者等が利用しやすいバリアフリー対応型信号機の整備、歩行者・自転車を保護する交通規制の実施及び道路管理者等関係機関と連携した面的・総合的な事故防止対策など、歩行者等にとって安心な交通環境の確保に努めた。

見やすく分かりやすい道路標識・標示の整備、交通の実態に応じた駐車規制、速度規制等交通規制の見直し、効果的な交通規制の実施、交通安全総点検の実施及び交通事故多発箇所対策の推進など、総合的な交通規制対策を推進した。

## 課題と平成18年の取組み

交通の円滑化を図るため、信号機の新設・改良、規制標識等の整備を計画的に推進するとともに、安全・安心交通環境整備として、「あんしん歩行エリア」対策及び生活道路対策について、道路管理者等関係機関と連携し、高齢者や障害者等が利用しやすい交通安全施設等の整備による歩行者、自転車等の保護等、面的で総合的な交通事故抑止対策を実施する。また、死傷事故が多発している交差点等において、道路管理者と連携し、見やすく分かりやすい道路標識・標示等を集中的に整備する。

安全で安心な交通環境の構築に資するため、交通管制センターの高度化、光ビーコンの整備拡充及び交通情報提供の高度化による交通管理の最適化を図る。

昭和60年前後に整備された交通安全施設が耐用年数を満了し、大量更新時代を迎えることから、老朽化した機器の減耗更新を順次実施して、交通情勢の変化に対応できる高度化改良を推進する。